



左:講義の会場となった多目的室にて、学長を務めた沼崎富会長をはじめ役員、講師、受講生がそろって記念写真。欠席者もなく、日本全国から40人の受講生が集まった



右上:受講生を代表して国分国壮第1班班長が、受講生に選ばれた榮譽を胸に秘め、吟剣詩舞道の真髄を学ぶという誓いのことを述べた

右下:能楽についての梅若幸子先生の講義では、長男である梅若英寿(ひでひさ)さんが扇を用いての舞も披露した

夏季吟道大学時間割

7月15日(土)

時間	項目/講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35-12:55	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
13:00-13:30	〈開講式〉
13:30-13:50	一、吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革/沼崎富会長
13:50-14:20	二、審査規定の解説とコンクール審査の実態/徳田寿風副会長
14:20-14:35	三、公益財団の組織運営と指導者の役割/池内賢二専務理事
14:50-15:10	〈休憩〉【チェックイン】
15:15-16:45	四、漢詩観賞/漢詩家 鷺野正明先生
17:00-17:45	〈夕食〉
18:00-19:30	五、現代における伝統芸能の課題/講師(能楽) 梅若幸子先生
19:40-20:40	六、班別座談会
20:45-21:45	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰宅・就寝〉

7月16日(日)

時間	項目/講師
6:00	〈起床〉
6:20-6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00-8:00	七、意見交換会 一吟詠の普及振興をめぐる一
8:00-8:50	〈朝食〉
9:00-9:10	【チェックアウト】班別に手荷物整理後、会議場集合
9:15-9:25	〈休憩〉
9:25-10:55	八、吟詠講義/横山寿城顧問
11:00-11:50	九、吟詠の発声法(伴奏との調和と研究)/演奏家 河野正明先生
11:50-12:30	〈昼食〉
12:30-14:20	十、研修吟詠
14:20-14:30	〈記念撮影〉
14:20-14:50	〈閉講式〉
14:50-15:00	事務局通達

日本財団助成事業

日時:令和5年7月15日(土)~16日(日)
場所:愛知県碧南市 勤労青少年水上スポーツセンター
主催:公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

令和5年度 夏季吟道大学開催

昨年、コロナ禍のおさまりにより、4年ぶりに開催された「夏季吟道大学」。従来に比べて規模を縮小しての実施でしたが、新しい宿泊施設等の評判もよく、今年も日本財団の助成により、勤労青少年水上スポーツセンターにて開催されました。漢詩や能の講義から実践的な吟詠研修まで、40人の受講生は充実した2日間を過ごし、吟剣詩舞道の普及発展の決意を新たにしました。

講師と講義の内容

(六時限目は班別座談会、七時限目は意見交換会、十時限目は吟詠研修)



〈一時限目〉沼崎富会長

吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革
一、基本姿勢、二、指導者の心構えなど、吟剣詩舞道憲章の7項目を実例を挙げて解説



〈二時限目〉徳田寿風副会長

審査規定の解説とコンクール審査の実態
「吟詠コンクール審査規定」と「笹川鎮江先生講義録」を元に吟詠コンクールの注意点を解説



〈三時限目〉池内賢二専務理事

公益財団の組織運営と指導者の役割
公益財団の定義など、日本吟剣詩舞振興会の組織運営について専務理事の立場から説明



〈四時限目〉鷺野正明先生(漢詩家)

漢詩観賞
恋のうた・妻子を詠う詩の特集として、紀元前11世紀の『詩経』から杜甫の『妻子を詠う』まで解説



〈五時限目〉梅若幸子先生(講師)

現代における伝統芸能の課題
伝統芸能である能についての説明とともに、能面や衣装などにまつわる道具について解説



〈八時限目〉横山寿城顧問

吟詠講義
会場近くの名古屋城を詠った松口月城の『名古屋城』を教材にして、受講生の代表数名が吟詠



〈九時限目〉河野正明先生(演奏家)

吟詠の発声法(伴奏との調和と研究)
吟詠コンクールに入賞するための7つの提言として「本数の選択」「音程の正確さ」などを解説

報告。世話役の「受講生起立、礼!」のかけ声とともに式や講義が開催されます。早淵鯉将参与の『開講のこ

とば』に続き、全員マスクをしたまま国家斉唱と財団会詩合吟。

そして沼崎富会長が「今回の研修会で新たな発見ができることへの喜

びとともに、初心を見つめ直すいい機会でもあります。この研修会がよ

り有意義で実り大きものとなりま

すよう、よろしくお願い申し上げます」と学長挨拶。

続いて国分国壮第1班班長が受講生誓いのことば。さらに伊藤鶴鈴

第2班班長の先導により、『桂林荘雑詠諸生に示す その一』の記念合吟を行いました。

〈一時限目〜五時限目〉
一〜三時限目までは、左記の内容

で約1時間にわたり開催。チェックインに続き、四時限目は鷺野正明先

生による「漢詩鑑賞」の講義。今回は中国の古代から唐代までの恋のう

たを中心に解説がなされました。夕食後もさらに講義は続きます。

五時限目は観世流シテ方の人間国宝・四世梅若実師の長女である梅若

幸子先生が、長い伝統を持つ能がど

のようにしてその技を継承しているか、貴重な講義を行いました。

〈班別座談会〉
その後は「吟剣詩舞の将来のある

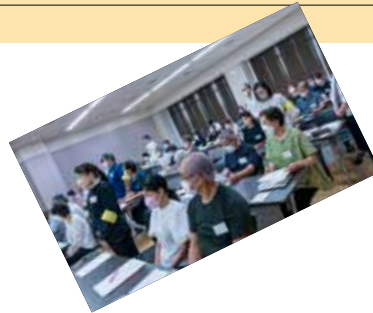
べき姿、目指す方向」をテーマに班別座談会を開始。各班に世話役の

先生方も参加して、熱心に意見が交わされました。その内容は班長・

副班長がまとめて翌日の「意見交換会」で発表されました(10ページ参照)。その後翌朝のために点呼・

とり舟体操のリハーサルを行い、22時に長い1日目のカリキュラムが終了しました。

友との 学びで高まる 吟道精神



7月15日(土)
漢詩や能など密度の高い講義

日本吟剣詩舞振興会主催の行事としては、昨年の夏季吟道大学ではじめて使用された愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンター。講義を行うに十分なスペースの多目的室に加え、ビジネスホテル並みの快適な宿泊施設を備えていることから受講生の評価も高く、今年もここで開催することとなりました。

〈開講式〉

今回の受講生は北海道から沖縄まで日本全国から集まった40名。10名ずつ4班に分かれ、事前に班長、副班長が決められました。開講式に先立って班長が全員そろったことを



会場となった「勤労青少年水上スポーツセンター」に到着した受講生達。この施設は公益財団法人日本モーターボート選手会が運営・管理をし、「日本モーターボート選手会常設訓練所」としての役割も持っている

令和5年度夏季吟道大学受講者一覧 ◎=班長、○=副班長

地区	氏名	指導歴	性別	流派及び役職名
北海道	三浦 桂讓	20年	男	心豊流吟詠昭延会 札幌支部長
東日本	毛呂 秀明	3年	女	契秀流吟詠会 師範
東日本	国分 国社◎	20年	女	国社流吟剣詩舞道家元
中部	中村 纓照	5年	男	(公社)関西吟詩文化協会公認鷺伸吟詠会 常任理事
中部	五藤 瑞麗	3年	女	瑞朋流齊心瑞朋吟詠会 副会長
近畿	荻野 彩城	8年	女	吟道賀城流総本部 上師範
近畿	大西 正輝	9年	男	(公社)関西吟詩文化協会公認華州会 常任理事
中国	吉本 藹山○	14年	女	水真流聖山吟詠会
四国	横田 香風	8年	男	臥風流・東讃連盟 会計部長
九州	吉田 光章子	5年	女	淡窓伝光流日本詩道会 師範

地区	氏名	指導歴	性別	流派及び役職名
東日本	西岡 緑優○	14年	女	緑崇流吟道緑水吟詠会上席師範
東日本	服部 志美	10年	女	吟道精修流青葉教場長
東日本	阿部 桜岳	6年	女	(公社)日本詩吟学院 岳智会
中部	伊藤 鶴鈴◎	3年	男	(公社)関西吟詩文化協会公認鷺伸吟詠会 議長 副講師
中部	原 観湖	7年	女	奉親流吟道総本部 師範
近畿	入口 みどり	10年	女	(公社)関西吟詩文化協会公認華州会 常任理事
中国	丸川 月洋	3年	男	吟道賀城流広島吟詠会
中国	川崎 鶴鵬	3年	女	朝翠流師鵬吟詠会 講師
四国	大野 江姚	5年	女	吟道江風流直心吟詠会
九州	荒木 悠泉	5年	男	清泉流清泉会 常任理事

地区	氏名	指導歴	性別	流派及び役職名
東日本	有坂 旦大	15年	男	旦早流吟詠会旦大会々長
東日本	野上 吟鴻○	14年	男	吟亮流吟風会雪朋支部
中部	白井 景鵬	5年	女	朝翠流朝道吟詠会 理事長
中部	綿谷 芳由	7年	女	吟道関心流 上席大師範
中部	山本 泰清	3年	男	翔鴻流静陵吟詠会 理事
近畿	山北 真鶯◎	25年	女	詩道真明流真鶯会 会長
中国	宮本 積山	20年	男	水真流山陽吟詠会 事務局長
四国	岡山 紫葉	8年	女	吟詠鶯風流 会計部長
四国	門舛 容葉	3年	女	(公社)関西吟詩文化協会公認高知容鳳会 理事
九州	原野 秀泉	5年	女	清泉流清泉会 常任理事

地区	氏名	指導歴	性別	流派及び役職名
東日本	増田 秀裕	5年	女	契秀流吟詠会 師範
東日本	藤代 修美	18年	女	日本修道流 支部長・事務局主任
中部	今泉 玉鵬	3年	女	朝翠流朝道吟詠会 副理事長
中部	白松 嶺清	3年	男	翔鴻流静陵吟詠会 理事
中部	松平 瑞城	3年	女	吟道錦城流総本部 常任理事
近畿	井戸 水帝○	10年	男	詩道楠水吟詠会 師範
中国	吉國 恵鵬	5年	女	朝翠流師鵬吟詠会 講師
四国	田中 麗光	10年	女	清吟堂吟友会 高瀬支部長
九州	榮 岳蓉 ◎	31年	女	日本詩吟学院岳陽会 正師範
九州	尾方 鈴昂	14年	女	日本吟声流 師範(人吉支部長)

少壮吟士候補&入選者も挑戦した「吟詠研修」



吟道大学のハイライトとも言えるのが、受講生がひとりずつ吟じて先生方に批評していた「吟詠研修」。ふだん経験できない貴重な時間です。今回は40人中22人の受講生が、それぞれコンクールの指定吟題の中から任意の吟題を選んで挑戦しました。前半は少壮吟士候補および少壮コンクール入選者が並び、レベルの高い吟を披露しますが(写真は今年の少壮コンクール入選者の綿谷芳由(未由子)さん)、講師の先生からは容赦ない批評がくだされます。

『九段の桜』を吟じた少壮吟士候補の西岡緑優さんは河野正明先生から「高音で声を絞って危うい感じに聴こえる」、徳田寿風先生から『『深き』のところのアクセントが違う』と指摘されました。西岡さんは「コロナ感染の影響で7本まで落とし、やっと8本に戻したところなので高音の出し方にまだ無理がありました。アクセントについては、この題はコンクールと関係ないところで詠っていたのでアクセントの意識が薄くなっていました。まさにびつたりとご指摘いただき、今後役に立たいと思います」と感想を述べました。



吟道大学の名物とも言える「とり舟体操」。前夜遅くまで講義等をこなした受講生達だが、朝6時20分から元気いっぱい「ししまの」など和歌を詠いながら舟の櫓を漕ぐ形を繰り返した

7月16日(日) 実践的な吟詠研修も充実

〈意見交換会〉

前夜の班別座談会での議論の内容を、各班の班長・副班長が発表。内容は下の囲み内を参照。

〈八時限目〉

『名古屋城』を題材にした松口月城の漢詩を教材として吟詠講義。各班の代表者が吟詠を行い、横山寿城顧問が批評を加えました。

〈九時限目〉

演奏家・河野正明先生が「まずはこちらだけでも覚えてほしい」とコンクールの吟じ出しで失敗しないために「前奏が聞こえてきたら同時に口ずさむ」ことを提唱。その後「母音の連続性」

などについて講義しました。

〈十時限目〉

毎回楽しみにしている受講生も多い吟詠講習。講評は河野先生、徳田副会長が行いましたが、「マイクに近すぎる」「音程が低くなりがち。詩吟専用楽器で練習すること」「コブシがまったく入っていないので、コブシだけの練習をするといい」など実践的な指導が行われました。

〈閉講式〉

記念撮影をしてから閉講式。沼崎会長が学長挨拶として「地元に戻ってからも研修会で学んだことを大いに活用され、ご自身のさらなる吟詠力の向上とともに、貴会員へのご指導にあたっていただきますよう期待します」と述べました。

修了証書の授与後、榮岳蓉第4班班長が「さらに研鑽を積み、全国各地にあつて吟剣詩舞道の普及発展に邁進することを誓います」と感謝のことは。徳田副会長が「この絆が続ぎ、全国に吟道大学の輪が広がっていくことを期待しております」と閉講のことを述べて2日間の幕を閉じました。

誓いを新たに:班長の声



第1班班長:国分国社さん

「どの流派も課題を持っていると思いますが、普及活動の策を学ばせていただくと思ってきました。父から会を受け継ぎましたが、ここで学んだことを皆さんにお伝えしながら、吟剣詩舞を発信していければと思います」



第2班班長:伊藤鶴鈴さん

「どういう心構えで取り組んでいけばいいか、勉強させていただこうと思って参加いたしました。漢詩や能など盛り沢山の内容ですが、伝統芸能である能の取り組みは大変興味深く、我々の普及活動にも役立てたいです」



第3班班長:山北真鶯さん

「詩吟の上達ができるようなアドバイスをいただきたいと思いやってきました。講義が詰まっていた大変だと思いましたが、徳田先生のコンクールの採点に関するご講義は大変勉強になり、帰ってから皆にも伝えたいです」



第4班班長:榮 岳蓉さん

「平成8年の第1回青年吟剣詩舞道大学に参加した経験がありますが、今回は少壮吟士候補として参加させていただきました。沖縄でも普及発展は大きな問題ですので、皆さんと情報共有しながら良い案が得られればと思います」



1日目夕食後の「班別座談会」の光景。各班に各運営世話役がついて進行役を務めて熱心な討議がなされ、翌朝各班ごとにその内容が発表された

「吟剣詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」

【班別座談会討議テーマ】()内は担当世話役

- 第1班(国分国社班長)**「若い世代の取り込みということでは、剣詩舞とのコラボ、輪唱をつけたりハモったりの自由な表現、歌謡吟詠でも古い歌ではなく『糸』や『いのちの歌』など新しい曲を組み合わせる等の意見が出ました」
- 第2班(伊藤鶴鈴班長)**「前向きな取り組みとしては、小学校のクラブ活動として始めて10人ぐらいのお子さんが参加している例が報告されました。今後どのようにすれば継続してもらえるかが課題かと思えます」
- 第3班(野上吟鴻副班長)**「新たな会員をどのように増やしていくかが中心になりました。私は小学校に勤務していますがコロナ禍以降学校での活動はむずかしい状況です。子供達にどのように興味を持ってもらえるかが重要です」
- 第4班(榮 岳蓉班長)**「コロナ禍の影響を受けて高齢の会員が減少する現状をどう打開するかをメインテーマとしました。減ってしまった吟剣詩舞イベントの復活、コンクールでの四部の創設などが必要との意見が出ました」



5年に一度だけ実施される少壮吟士および同候補の集合写真。今回は45人が参加した

昨年3年ぶりに対面形式での開催が実現した少壮吟士並びに同候補夏季特別研修会。少壮コンクールの出場者減少とレベル低下により、少壮吟士の選定が「選考審査会」形式に変更になるなど(8ページ参照)、その存在が曲がり角を迎えるなか、吟界最高峰の矜持を持つて41人の現役少壮吟士と、3月12日の最後の少壮コンクール3回入選を果たした4人の少壮吟士候補の計45人が集合。吟詠演習を中心とした研修会を開催し、辛苦多いながらも仲間と相親しむ晩夏の2日間を過ごしました。

令和5年度少壮吟士並びに同候補夏季特別研修会 逆風に立ち向かう 少壮吟士としての矜持

日本財団助成事業

日時：令和5年8月26日(土)～27日(日)
場所：愛知県碧南市・勤労青少年水上スポーツセンター
主催：公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

1日目 8月26日(土)

【令和5年度少壮吟士候補特別研修会(第44期)】

- | | |
|-------------|---|
| 12:55～14:00 | 1、国歌斉唱並びに財団会詩合吟 |
| | 2、財団役員紹介 |
| | 3、特別参加の宗家、会長紹介 |
| | 4、少壮吟士候補者紹介 |
| | 5、財団代表挨拶：沼崎 富会長 |
| | 6、少壮吟士候補者への期待
あ、吟剣詩舞の向上と指導者の役割：徳田寿風副会長
い、剣詩舞道家からの期待：早淵鯉将副会長 |

【令和5年度夏季少壮吟士特別研修会】

- | | |
|-------------|---|
| 14:00～15:30 | 1、漢詩解説(講師：鷺野正明先生) |
| 15:40～17:00 | 2、吟詠演習 その1 (講師：吟詠専門委員)
※少壮吟士候補及び新少壮吟士から行い、その後今年度のCD吹き込み対象者(16名)に対して順番に行っていく。 |
| 17:00～18:00 | 夕食およびチェックイン |
| 18:00～20:00 | 3、吟詠演習 その2 (講師：同上) |
| 20:10～21:00 | 4、名流大会(熊本)企画構成番組について |
| 21:05～22:00 | 5、全国少壮吟士総会 |

2日目 8月27日(日)

- | | |
|-------------|--|
| 8:00～9:00 | 朝食およびチェックアウト |
| 9:00～9:50 | 6、吟詠演習 その3(講師：同上) |
| 10:00～12:10 | 7、吟詠演習 その4(講師：同上) |
| 12:10～13:10 | 昼食 |
| 13:10～14:00 | 8、意見交換会
※少壮吟士会から事前に出た提案・意見を、財団としてあらかじめ検討した回答を含め進めていく。 |
| 14:10～14:40 | 9、研修会閉講式 |



漢詩解説： 鷺野正明先生

少壮研修会では初めて解説に立った鷺野先生。「漢詩と色彩～色彩と詩人の思い～」と題して、杜甫の『春望』、李白の『汪倫に贈る』、さらには王之涣と王翰の二人の『涼州詞』などを例にとって、詩人の色彩感覚について詳細な説明を行った



剣詩舞道からの期待： 早淵鯉将副会長

海外支部の指導で渡欧中のため映像での講義となった。「吟詠家と剣詩舞家が協力し合って観客の皆さんに喜んでいただく。そのためにはお互いが自分の持てる力を十分に発揮する、発揮する努力をすることが大切」とお互いの研鑽の重要性を力説



吟剣詩舞の向上と指導者の役割： 徳田寿風副会長

「いつでも聞いても納得してもらえる吟詠ができていからこそ最高峰であり、憧れの的。その上に舞台上での所作、立ち居振る舞いが洗練されていて美しい。それでこそ冠の値打ちがあります」と少壮吟士の役割を説いた

てより有意義なものとなりますよう祈念します」と挨拶。次に少壮吟士候補への期待として、徳田寿風副会長と早淵鯉将副会長が講義（左ページ参照）。海外の門下生の指導のために渡欧中の早淵副会長は、ビデオでの挨拶となりました。14時からは少壮吟士会の自主運営として、「少壮吟士夏季特別研修会」を開催。まず本誌の連載でもおなじみの鷺野正明先生による「漢詩解説」（左ページ参照）。ふだん親しんでいる漢詩の新たな側面が示され、参加者一同認識を新たにしました。続いて夕食をはさみ約3時間にわたる「吟詠演習」。少壮吟士候補及び新少壮吟士から行い、その後今年度のCD吹き込み対象者と続きます。20時過ぎからは12月に熊本で開催される企画構成番組の合吟の練習と吹込み。その後さらに全国少壮吟士会総会が行われ、22時にようやく長い初日の研修が終了しました。

8月27日(日)
**吟詠演習、意見交換会
などの少壮吟士夏季
特別研修会**
2日目は朝8時から朝食の後、「吟詠演習」の続き。全国剣詩舞コンクール用のCD吹き込みを行う16人（左表参照）は、事前に徳田寿風副会長、河野鶴聲理事、清水錦洲理事の3人の吟詠専門委員と、剣詩舞家の早淵鯉将副会長に自分の録音データを送付。それぞれが修正すべき点等を伝えて、それに基づいて各自が修正を加えて今回の吟詠演習に臨みました。吟詠専門委員からはその修正を評価する声も上がりましたが、それでもなお「情景が浮かび上がってこない」「もう少し凛として詠ってほしい」など厳しい注文が飛びます。一人10分の持ち時間ではなかなか終わらず、16人の後の吹込みなしの吟詠演習は時間を短縮、また中止となった少壮吟士もいました。

8月26日(土)

スタートラインの心構え、少壮吟士候補特別研修会

令和元年度に千葉県成田市の「成田東武ホテルエアポート」で開催された後、コロナ禍のために翌年



吟詠演習に挑む八代光晃子少壮吟士会会長。会長といえども吟詠専門委員の先生方からはよりレベルの高い注文が突きつけられ、完成度が高められていく

は中止、次の年はオンライン開催となった少壮吟士並びに同候補夏季特別研修会。昨年は日本財団助成事業として、公益社団法人日本モーターボート選手会が運営・管理する愛知県「勤労青少年水上スポーツセンター」にて開催。今年も同センターにて少壮吟士および同候補、財団役員が一堂に会し、2日間計13時間にわたる密度の濃い研修が行われました。研修会はまだ第44期少壮吟士となる予定の少壮吟士候補4人を対象にした「少壮吟士候補特別研修会」から開催。4人が所属する各流派の宗家・会長等から候補のプロフィールが紹介されます（左ページ参照）。続いて財団代表として沼崎富会長が「毎年開催されるこの研修会は、改めて自己を見つめ直す良い機会となり、吟詠のさらなる向上を目指す場であると同時に研鑽を積む場でもあります。どうぞこの2日間の研修会が皆様方にとりまし



少壮吟士会総会において、バッグと胸元につけるネームプレートもらった少壮吟士候補の4人。毎年このプレートを付けることになる



吟詠演習は少壮吟士候補の4人からスタート。講師の先生方と先輩少壮吟士の前で吟じるのはコンクール以上の緊張、恒成光熙子候補(写真)は「精神崩壊しそうでした(笑)」とのこと



12月の名流大会の企画構成番組で披露される『春望』の合吟を練習する少壮吟士。伊藤契麗少壮吟士OBの譜付は高度なハーモニーが入ったむずかしいものだが、数回の練習で録音できるレベルに達し、少壮吟士の實力を見せつけた

昼食後は少壮吟士会から事前に出た提案・意見に対して財団が検討した回答を発表する「意見交換会」を約1時間実施(下のコラム参照)。14時の閉講式ではまず今年度で65歳の定年を迎えて卒業する中武玲星少壮吟士に表彰状が渡され、中武少壮吟士が「こんなに高度な、こんなに素晴らしい人しか集っていない

い研修会というのは、他には日本中を探してもありませんので、20年間この研修を受けさせていただけたのは本当に幸せなことでした」と挨拶。そして野上吟鴻候補の先導で「桂林荘雑詠諸生に示す(その一)」を全員で合吟。最後は榮岳候補が受講生を代表して謝辞を述べ、二日間 にわたる研修会の幕を閉じました。

令和6年度全国剣詩舞コンクール指定吟題:吟詠演習

部門	内容	名前	吟題
剣舞 幼年・少年の部	絶句	大山宗鵬	客舎の壁に題す
剣舞 幼年・少年の部	絶句	中武玲星	鞍馬の牛若
剣舞 幼年・少年の部	絶句	石川渾風	大楠公
剣舞 青年・一般の部	絶句	林 杏泉	奥羽道中
剣舞 青年・一般の部	絶句	野中秀宗	舟八島を過ぐ
剣舞 青年・一般の部	絶句	石川春海	豊公の旧宅に寄題す
剣舞 青年・一般の部	絶句	松葉水章	涼州詞
剣舞 青年・一般の部	和歌	山岡桜山	和歌さえのぼる
詩舞 幼年・少年の部	絶句	星野紫栄	青葉の笛
詩舞 幼年・少年の部	絶句	林 煌彩	佳賓好主
詩舞 幼年・少年の部	和歌	伊東響峰	和歌・霞立つ
詩舞 青年・一般の部	絶句	米本歌泉	巖島
詩舞 青年・一般の部	絶句	宇井修光	絶句(江碧にして)
詩舞 青年・一般の部	絶句	八代光晃子	壇の浦を過ぐ
詩舞 青年・一般の部	絶句	向山侑珠	常盤孤を抱くの図に題す
詩舞 青年・一般の部	和歌	塩澤宗鳳	和歌・よもの海

少壮吟士卒業にあたって

少壮吟士夏季特別研修会では、毎回閉講式にて今年度で65歳の定年を迎えて卒業する少壮吟士を表彰します。今年度で卒業するのは第一五期の宮武玲星少壮吟士二人。20年間少壮吟士として過ごしたさまざまな思いを語っていただきました。

——少壮吟士を卒業されることになりましたが、今のお気持ちは？

まだ本当の実感は湧かないのですが、「来年はもうここに来なくていいんだな」と昨日からずっと思っていたら、やはり少し寂しい気持ちになりました。

——詩吟を始められたのはご両親の影響ですか？

はい。とくに母ですね。師範として熱心に活動して、私も10歳頃始めました。元々日本詩吟学院の宮崎岳星会という認可団体でしたが、師事していらっしゃった坂本岳雄(徹星)先生が独立されて藤星流となりました。



同じ宮崎県の少壮吟士として活動してきた八代光晃少壮吟士会会長と、同期の塩澤宗鳳少壮吟士。閉講式の挨拶で二人の盟友に感謝の言葉を贈り、思わず涙ぐむ場面も

——少壮吟士になられた時はお母様も大変お喜びになったとか。

はい、足腰が弱くなっていました。主人に付き沿われてシルバーカーを押しながら武道館に見送ってくれました(笑)。——平成27年度の少壮吟士夏季吟詠特別研修会の際に少壮吟士全員にインタビューさせていただきましたが、前日にお母様が亡くなられたと聞いて驚きました。

お盆あたりからだいぶ悪かったのですが、あの時は全員の写真撮影もしてムックの『吟と舞』に掲載するというのでそこに私の写真がないと母も悲しむだろうなと思いついて。主人にも行ったほうがいいと言われて、1日だけ参加することにしました。

——少壮吟士になって辛かったこと、逆に楽しかったことは？

一番厳しかったのは50歳で癌になった時ですね。詩吟どころか命さえ失ってしまいかもしれなかった。抗がん剤

意見交換会

少壮吟士からの提案・意見に対して財団の回答を伝え、さらに質疑応答を実施。項目と回答の概要は以下の通り。
イ、改正となった“少壮吟士制度”について=『吟剣詩舞』8月号6ページ参照
ロ、吟剣詩舞道と歌集編纂の進捗状況について=『吟剣詩舞』9月号2ページ参照
ハ、全国吟詠コンクールの年齢別部門について、高齢化の進む中80歳以上の部門の新設は?—一般四部を新設するのではなく、一般二部を74歳まで、一般三部を75歳以上とする
ニ、高齢化の進む吟剣詩舞道界で、高齢者が吟詠を未永く楽しめるための手立は?—東京都ではブロックに分けて平成5年から70歳以上の吟詠家のための「ことぶき吟詠の集い」を実施。そうしたイベントを充実させたい
その他に「インボイス制度」についてなどの質問があった。



左から沼崎富会長と吟詠専門委員の徳田寿風副会長、河野鶴聲理事、清水錦洲理事。吟詠演習では吟詠専門委員の3人が厳しくも愛のある指導を行った



少壮吟士夏季特別研修会で毎回最後に合吟される『桂林荘雑詠諸生に示す(その一)』。今年は野上吟鴻候補が「道(ゆ)うことを休(や)めよ他郷苦辛多し」と先導を務めた

治療もあって1年お休みしましたが、私にとって一番大事なのはやはり詩吟だなど痛感しました。本当に実感として「一日大事にしようと思いました。楽しかったことは、やはり仲間ですね。みな同じ道を通じて少壮になったという連帯感があるので、大会等でお会いできるのが楽しみでした。

——少壮吟士としての活動で印象に残っていることは？

昨夜、11月の名流大会のために皆で合吟の練習をしました。ハモリもあってかなりむずかしい内容です。譜をいただいて皆さんそれぞれ練習はしてきた

ものの、数回合わせただけで発表できる完成度になった。やはり少壮吟士として、すごいなと改めて思いました。自分にとってこれが最後ということもあって、本当に感動しました。

——後輩の少壮吟士に何かアドバイスはありますか？

新人の方たちの吟を聞くと皆さん本当にお上手です。ただ何かあると「少壮吟士なのに」と言われますので、「人間も素晴らしいね」と言われるように自分を磨いていっていただければ。私もOBとして吟界のお役に立てるように頑張ります。

「少壮としての連帯感を持てる仲間に会えるのが楽しみでした」

第二十五期 中武玲星

宮崎県 吟道藤星流



憧れの少壮吟

士に至る道程と志

第44期少壮吟士候補紹介

3月12日に行われた「第50回全国少壮吟詠審査コンクール決選大会」で3回目の入選を果たし、晴れて少壮吟士候補となった4人。8月26日に開催された「令和5年度少壮吟士候補特別研修会」にて、所属する各流派の宗家・会長が愛弟子のプロフィールを紹介しました。当日の吟詠演習後の本人の感想とともにお届けします。



恒成光熙子候補(大分)
淡窓伝光霊流日本詩道会
前田卓霊副会長

「恒成さんはご両親とも詩吟に親しまれており、10歳で淡窓伝光霊流中津詩道会に入門。4年後には日本コロムビアの全国コンクール少年の部で優勝、33歳の時に公益財団の全国吟詠コンクール決勝大会青年の部で優勝しました。出産、



栄岳蓉候補(沖縄)
日本詩吟学院岳陽会
岩崎岳崩会長

「榮さんと吟との結びつきは小学4年生の時。お母様が看護師をされていた病院の横に老人ホームがありまして、そちらで私どもの会の詩吟教室を開かせていただいたのがきっかけです。最初はなかなか声が出なくて泣いたこともありましたが、



西岡緑優候補(大阪)
緑崇流吟道緑水吟詠会
箕輪緑崇宗家会長

「弊会では第一期の奥園緑水はじめ4名の少壮吟士を擁しておりますが、実に30期ぶりで5人目の少壮吟士が誕生しようとしていることに大きな感動を感じております。西岡さんはお祖父様が楽しそうに詩吟を習われているのを見て幼少



野上吟鴻候補(栃木)
吟亮流吟風会総本部
鈴木吟亮三代宗家

「昭和6年創立の古参の流派ですが、2人目の少壮吟士誕生から40年以上も間が空いてしまいました。野上さんのお祖父様は栃木で詩吟を広めた功労者ですが、最初なかなか生徒が集まらず、5歳の時に半ば強引に教室に連れて行かれたそう

育児、お仕事もされていて、少壮吟士への道のりはけっして簡単ではなかったようです。恒成候補は人とは違う斬新な考えと大きな夢を心の内面に秘めて、豊かな愛に溢れた人です。美しい緑の葉をつけ、鮮やかな花を開き、明日を担うように応援しております」



恒成光熙子候補のコメント

「吟詠実習では精神崩壊しそうなくらい緊張して(笑)、出来栄がまったくダメでした。徳田寿風先生がおっしゃられたように、体調を整えていつでも完璧な吟ができないといけないと実感しています。流派にも多くの少壮吟士の方がおられて、周囲からも勧められて自然と目指すようになりましたが、少壮吟士の名に恥じぬよう、気を引き締めて精進していきたいです」

お母様が厳しくも優しく引つ張ってこられました。その後めきめきと上達しまして、平成十七年度の全国吟詠コンクール一般一部で見事に優勝されました。私どもの会としても、立派な少壮吟士に成長して行かれますよう、精一杯お手伝いしたいと思っております」



栄岳蓉候補のコメント

「先輩方の中で研修会に参加させていただき、心新たに頑張らないといけないという気持ち湧き上がってきております。非常に格が高いこの場に自分も入れるということがすごくありがたく、身が引き締まる思いです。沖縄初の少壮吟士ということで新聞に載せていただいたりしましたが、地元の吟界発展の頑張りたいと思っております」

期から詩吟をはじめ、奥園および先代の箕輪緑崇にかなり厳しく指導され、全国吟詠コンクールで少年、青年、一般一部と優勝するにいたりました。艱難辛苦を乗り越え、やっとな少壮吟士候補にたどり着き、奥園、先代箕輪の両名も泉下から喜んでいいることと思います」



西岡緑優候補のコメント

「吟詠実習では先生方のオーラに負けそうになりましたが、なんとか詠わせていただきました。最高峰の先生にご指導いただける機会はあまりありませんので、緊張はしますけれども、すごく楽しみにしてお伺いしました。少壮吟士候補としてやっとなスタートラインに立ったところですが、強い吟でも風景詩でもその詩に合わせた詠い方ができる吟者になれるよう勉強したいです」

です。2019年の少壮コンクールでは律詩で失敗し、その年末にお母様が亡くなられて晴れ姿を見せられませんでした。今、天国で喜んでいらつしやると思います。私も財団の広報理事長をやらせていただいています、この恩返しのためにも頑張りたいです」



野上吟鴻候補のコメント

「獄中の作」はまだ自分にはむずかしいなと思いつながらチャレンジしましたが、やはり勉強不足で伝える力が足りませんでした。実際に指導していただいて、今まで自分は素読にあまり力を入れていなかったと痛感し、これからやりたいことがたくさん見つかりました。日々先生方、少壮の先輩方から学ばせていただき、周りの詩吟愛好者の方々に届けたいと思います」